

令和3年度第1回富山市通学区域審議会 議事概要

開催日：令和3年10月15日（金）

開催時間：19時～20時50分

開催場所：Toyama Sakuraビル5階大会議室

出席委員：中村会長、品川副会長、石動委員、江尻委員、菊川委員、
國香委員、斉藤委員、笹田委員、城岡委員、高木委員、
藤田委員、堀田委員、松井委員、吉田委員
計14名

《開会》

【司会】 令和3年度第1回富山市通学区域審議会を開催する。
渡辺委員が欠席だが、委員14名が出席しているため、富山市通学区域審議会条例第6条第2項の規定により、審議会は成立している。

（宮口教育長 挨拶）

（中村会長 挨拶）

（委員紹介）

【司会】 事務局からは宮口教育長、金山教育委員会事務局長ほか12名が出席している。

《諮問書手交》

【宮口教育長】 富山市立小・中学校の再編原案について、富山市通学区域審議会条例第2条の規定に基づき貴審議会の意見を求める。

（諮問書手交）

《議事（1）事務局説明》

【中村会長】 諮問内容及び審議日程について事務局から説明を求める。

【学校再編推進課長】 （諮問内容および審議日程について説明）

- 【中村会長】 審議日程について、異議があるか。
(異議なし)
- 【中村会長】 異議なしと認める。よって審議日程については事務局の提案どおりとする。
視察の実施について、異議があるか。
(異議なし)
- 【中村会長】 異議なしと認める。よって視察の実施については事務局の提案どおり実施する。
その他、質疑・意見等があるか。
(質疑・意見なし)
- 【中村会長】 再編原案について事務局から説明を求める。
- 【学校再編推進課長】 (再編原案について説明)

《議事（２）意見交換》

- 【中村会長】 教室数の不足分は何らかの形で対応されるという前提か、その案は少々問題があるという認識で臨むべきか。
- 【学校再編推進課長】 時点ごとの不足数を表しており、その時点までに地域、保護者で再編について合意が得られる見込みがあるものは、再編に合わせて校舎の増築等を検討することが必要であり、教育委員会としても予算の確保、増築について検討することになる。
- 【中村会長】 必要教室数が普通教室数を超えていても、全体の保有教室数の範囲に収まっていれば充足ということだが、学校運営上、差し障りはないのか。
- 【学校再編推進課長】 年度により配慮が必要な児童生徒がいる場合に普通教室を支援のための教室に使う場合等あり、一概には言えない。時点ごとに確認する必要がある。
- 【中村会長】 現在、通学距離が３キロを超える児童生徒がいるかどうか資料の中でわかるか。
- 【学校再編推進課長】 資料５中には示されていない。通学距離が３キロを超える児

童生徒に対する対応は検討しなければならないが、これまではスクールバスやコミュニティバスを活用した支援を実施している。現在統合を進めている水橋地区の三郷小学校・上条小学校の場合はスクールバスを、試験運行を経て来年4月以降本格運用することを考えている。バスを運行する際には、バス停、運行ルート、乗車時間、居住地から学校までの距離も含め、負担にならないような方法を検討する必要がある。

【石動委員】 再編後の学級人数を小学校は1クラス35人、中学校は1クラス40人で算出し、令和22年度まで見通しているが、例えば1クラス30人学級になるなど規模が小さくなると、違う数字になるのではないか。

【学校再編推進課長】 今、文科省で学級数の見直しが進んでおり、例えば30人学級、35人学級になった場合、数値の見直しは必要になる。人口の推計値を出しているので、これを用いてさらに学級数を算出することはできる。

【中村会長】 石動委員の考えは、必要に応じて提示したほうが良いということか。

【石動委員】 令和22年度まで示す際には、数値が変わる場合があることも見えたほうがよいと思う。

【江尻委員】 望ましい通学距離3キロは1つの目安だが、通学時間が見えていないところが気になる。昨年度の審議会においても答申に加えてほしいとお願いした中山間地域の豪雪地帯への配慮の観点から、通学時間も示してほしい。

【中村会長】 通学時間は徒歩であれば機械的に算出可能だが、スクールバスその他の交通手段によらざるを得ないときの時間というものもある。また、何か工夫の余地があるのかということも、我々は考慮していかなければならないかと思う。基本方針にのっとりながら、それらも含めて丁寧な議論が必要かと思うので、必要に応じて情報等を聞かせてほしい。

【藤田委員】 地域との連携という観点で、学校再編となると、地域との組

合せも再編になる。再編を行う場合、現在動いているコミュニティ・スクール、地域学校協働活動は、組みなおして新しいコミュニティ・スクールという形で、地域、学校との連携という形で考えていくのか、それとも、現在動いているものをある程度活かしながら考えていくのか。現在導入している13校の現状という観点を入れるかどうかの決断がある程度必要だと思う。(現状を)引きずらなくても、組み替えるならばそれはそれだが、ソフト面で最も大切なところだと考えるので、地域、学校、家庭との連携という観点を、義務教育段階で、今育んできているものをどのように動かし、どのようにしていくのか、また今行政サイドがどのように考えているのか、地域からどのような声が上がっているのか、もし分かるのであれば可能な範囲で教えてほしい。

【中村会長】 今後の検討の方向性として、まずは基本方針、教育委員会が示した考え方を踏まえ、議論するのが大事だと思っている。今後、統合が進んでいくとすると、コミュニティ・スクールの重要性はますます高まっていくと思うし、現にコミュニティ・スクールとして位置づけられているところが統合するとどのようになるのか、あるいは今、コミュニティ・スクールを計画している学校、校区で、統合に当たってどのような方向性で議論を進めていくのかというところは当然考えていけないといけないと思うが、我々としては基本的には、コミュニティ・スクールが導入されているかどうかを念頭に置いて議論をしていくことが大切である。

【笹田委員】 再編先学校の指定避難所区分が出てきて安心した。やはり今は災害に強い学校、防災拠点としての学校、災害時に学校がどう機能するかは非常に重要な視点だと思う。資料では洪水ハザードマップに基づいて指定避難所の状況が示されているが、沿岸部、神通川や常願寺川の河口付近には高い津波が来る可能性がある。富山市津波ハザードマップは検討材料の一

つに入っているのか。

【学校再編推進課長】 津波ハザードマップでは、例えば浜黒崎小学校や針原小学校が指定されていたかと思うが、今回の再編案としてそれらの小学校に再編するというのは、たしかなかったかと思う。ただ逆に、再編後にどうするかという考え方はまた出てくるかと考える。

【笹田委員】 おっしゃるとおりで、再編で学校が移動し、沿岸部で、例えば住民の方が逃げるところがなくなってしまうという状況もあるので、総合的に考える必要がある。

【中村会長】 今回、基本方針に合致するような形で、まずは案をつくったかと思う。災害に対する対応等も含めて情報はもらっており、私どもとしては、それぞれ示された案が妥当なのか、それとも少し懸念が残る、あるいは何らかの対応が必要かというところも含めて評価をしていく。今後、答申の後には地域の方に説明するという事なので、それぞれの立場から論点をしっかりと整理し、地域の方々の判断に資するようなものをしっかりとつくっていくことが大事である。

【堀田委員】 例えば柳町小学校と針原小学校の場合、統合先によって進学する中学校が変わってくる。現状、今年度の中学校の進学先について、どこの中学校にどれだけ進学しているかの割合など、検討の材料になるかと思うので、データがあれば、次回、検討の際に提示してほしい。

【中村会長】 今回、再編原案は基本方針に沿った形で、ある意味機械的に作成された部分もあるかと思う。今後具体的に議論を深めていく上で、通学距離、防災拠点としての役割、社会教育としての位置づけ、進学先の中学校に関する情報など、議論の参考にしたいので、事務局のほうでできる限り対応してほしい。

【品川副会長】 今回の審議会で諮問されているのは、この原案それぞれの妥当性ということでよいのか。それとも、この中から方向づけまで行うのか。

- 【中村会長】 今回示された原案が基本方針等に照らし合わせて妥当なものかということ判断する。その上で、複数の案が示されているものについては、それぞれの立場、考えでもって、懸念点やメリットなどの論点の整理をしていくことが必要かと思う。明らかにA案よりもB案のほうが全ての、あるいはほとんどの面で優れているというものであれば、A案よりもB案が望ましいという考えを表明することは、今後、地域の方に説明をしていく上で大事なことかと思う。あくまで基本方針に沿ったものであるか、大きく逸脱しているものではないか、もしも基本方針からはみ出る部分があるとしたら、それは解消できるものなのか、対応できないものなのかというところを考えていくということで、この中からどれか1つに全てにおいて決める必要はないと思っているが、どうか。
- 【宮口教育長】 一長一短あるかと思うので、地域によっては一つの案で、あるいは複数案で妥当だという最終答申もあるのではないかな。全て完璧に条件を満たすものはなかなか出てこないのではないかなと思っているが、いずれにせよ、子どもたちの教育環境をよりよいものにしていく上で、これがベスト、ベターであるという答申をいただきたい。
- 【品川副会長】 一定レベルの方向づけは行い、もし結論が出るようであれば絞り込みを行い、複数案のメリット、デメリットを併記するという形も地域によってはあり得ると理解した。
- 【中村会長】 事務局から補足等はあるか。
- 【学校再編推進課長】 第2回では中央地域、西部地域、東部地域について審議をいただきたいので、資料を見ていただけると大変助かる。
- 【金山事務局長】 答申をいただいた後に策定する再編計画は、今後、保護者や地域の方々と学校再編の議論を進めるためのスタート地点に立つものと捉えている。計画の骨格となる再編原案について、委員の皆様に御審議いただき、本市としての再編計画を取りまとめてまいりたいと考えている。

【中村会長】 以上をもって本日の議事は終了したが、その他、意見等あるか。

(質問等なし)

【中村会長】 本日の審議は終了する。最後に、事務局から連絡事項等あるか。

【学校再編推進課長】 (事務連絡)

【中村会長】 議事を事務局に返す。

《閉会》

【司会】 第1回富山市通学区域審議会を閉会する。

—— 了 ——